令和４年度 第１回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
（　概　要　）

１　開催日時
令和４年６月１０日（金）13 時 30 分～ 16 時 00 分

２　開催場所
中部森林管理局　大会議室（対面 web 併用方式による）

３　検討内容
（１）国有林材供給調整対策について
（２）情報交換等
（３）その他

４　検討結果
国際情勢は不安定な状況が続いている一方で、我が国は経済社会活動の正常化が徐々に進みつつあり、コロナ禍から景気が持ち直していくことが期待されている。
こうした中、管内の原木価格についてみると、高値からやや下落基調にあり落ち着きを見せ始めている樹種や、一部用途向けでは高騰している樹種も見られているが、全体としてみれば、引き続き国産原木の需要は堅調であり、価格も高止まりの傾向で推移している。
しかしながら、資材価格の全般的な上昇や供給面での制約等による景気の下振れリスクも懸念されているなど不透明な状況も見られることから、引き続き管内の情勢を注視しながら、現下の国産材需要に応えるため、国有林材の安定的な供給に取り組むことが重要である。
なお、現時点では直ちに国有林材の供給調整を行う必要は無いが、本年度の製品生産事業の着実な実行を通じて市場等への安定的な木材供給に努めていくべきである。

５　委員意見等
〇製材工場としては、入荷量・生産量・販売量・在庫量すべて順調である。販売も既存のルートに対して順調に供給ができている。在庫も約一月分は確保できている。価格は高いなりに販売に転嫁できており順調である。一方で、住宅関連の各資材全般が価格上昇しており、住宅価格も上昇しているため、地域の中小ビルダーが苦労している。

〇ウッドショックが落ち着いた頃に輸入停止の措置があり不安要素は続いている。ヒノキについては、西日本からも入ってきており、価格は下落傾向。合板は代替品であ

るカラマツの供給が間に合っていないため、価格の高止まりはしばらく続くと思われる。住宅価格の上昇もあり、一般住宅については様子見で需要が減ってきているものの、非住宅需要は増えている。需要が下がっても、代替品としての国産材を求めており、価格はしばらく高止まりが続くと予想。山側としては需要が増えても、労働力不足の問題もあり対応が追いつけない。現状の需給バランスは良いので供給調整は必要ないと考える。

〇岐阜県の状況として、１月・２月頃は地元で B 材の出材が少なかったため、B 材工場が他地域から原木を仕入れている状況が続いており、地元材の納材調整が若干必要となっている現状である。
　ウッドショックの関係もあり、輸入材から国産材へとシフトしていく中で、スギ３ｍ材の原木が不足気味である。特に九州地区での単価が上昇しており、中部地区との差が出てきそうだが、急激な反応はあまり良くない。スギ４ｍについては、引き続き高止まりで推移していくと見ている。国有林は計画通りの出材をしていただき、民有林材をどう増やしていくかが課題。

〇長野県の状況として、昨年末からの大雪の影響でスギの生産量が落ちていたが、現在は国有林を初め民有林でも本格的に伐採が始まっている。国産材需要が高まる中で、スギ３ｍの要望が多く、１６ｃｍ上は３ｍ造材にシフトしながら、地元の需要に対応している。
　カラマツについては、合板の関係で３月頃から価格が高騰している。カラマツが主の製材業者は急激な上昇を製材価格に転嫁できず困っており、５月末頃からカラマツ原木在庫が減少している。価格は合板の方が若干高い状況。中南信はアカマツからカラマツにシフトしてきたため、生産が増えていく中で地元需要に対応していきたい。国有林の需給調整は必要ないと考える。国有林のカラマツ出材に期待したい。

〇山側としては、労働力確保が課題である。国産材の需要が増えても、山から増産するだけの人手が足りていない。現状を維持していくことが精一杯で、とにかく給料・待遇を良くして安全性を高めないと、国産材の時代が来たとは言うものの対応できない事態になっている。これらを改善する補助金等の制度を真剣に考える時期が来ている。

〇民有林としても、生産意欲は旺盛で積極的に出材しているところではあるが、人手不足で出したくても出せない状況もある。また、所有者が多いこともあり、事務手続きに時間がかかってしまう問題もある。